



夕陽に染まり  
舞う桜—



# 材センター



**【寸】**塊の世代が定年し、  
将来の高齢化が避

けられないことが明確  
だった平成17年。全国的  
にシルバー人材センター  
の設立が進んでいました。  
60歳で定年を迎え年金  
を取得できるようになる  
65歳までの間、収入源と  
しての働く場、そして、  
そもそもじつとしてい  
ることを良しとせず、働け  
るうちは働くという気質  
を持つ日本人の生きがい  
づくりの場が求められ始  
めたことが背景にありま  
した。

涌谷町においても、高  
齢化が進むことで、庭の  
草取りや植木の剪定など  
の日常作業といったシル  
バー人材センターとして  
の請負業務の需要が見  
込まれました。そこに涌  
谷町内での新たな経済循  
環を生み出すことも目的  
の一つとして、平成18年  
4月にシルバー人材セン  
ターが設立されました。

特集—汗と笑顔、生きがいが金色に輝く—

# 涌谷町ゴールド人

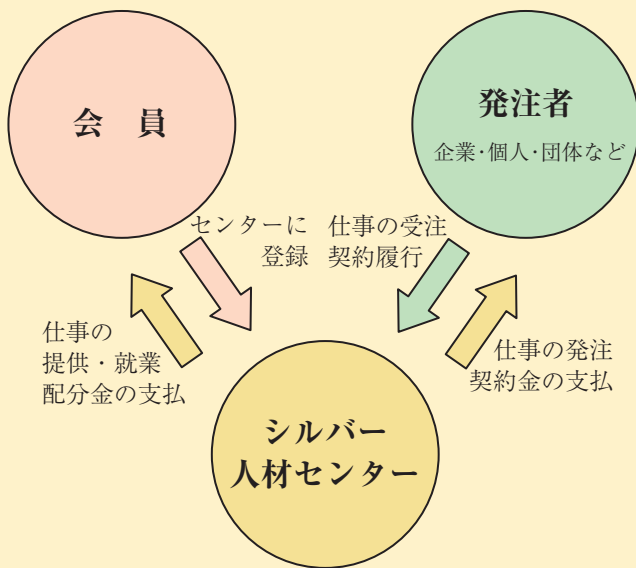


笑顔で休憩する何気ない縁側の風景。30度を超す真夏の炎天下で働き、依頼主とともに楽しむ一服は格別。作業が終わり自宅に帰ってからの晩酌は、また別格。60歳を超えても家にこもらず、外に出ることが、生きがいづくりとなり、「いぶし銀」ではなく、「黄金」に輝く地域の力となる。

シルバー人材センターとは、進展する高齢化社会を見据えて、シニア層に働く機会を提供することで、センターに登録する会員の生きがいの充実や生活の安定、さらに、それまで培ってきた経験と知識、技術によって地域社会の発展や現役世代の育成とサポートなどを目的としたものです。

また、シニア層の生きがいづくりを主たる目的としていることから、国や県、町からの補助金を運営資金の一部とする。ことで、民間企業よりも安い業務請負を実現しています。会員との雇用関係はなく、個人や企業などから依頼があった業務を仲介しています。

## 《シルバー人材センターの仕組み》



元涌谷町シルバー人材センター事務局長 吉城眞一さん

その設立に、平成17年秋から携わった吉城眞一さんは、3地区ごとに開催した説明会で、「60歳で定年した人の働く場が必要。もっと働きたいから設立して」という前向きな意見に手応えを感じました。

翌年の4月に、新下町浦の遠田酪農涌谷出張所跡地を事務局とし、131人の会員とともに船出。

「公益性の性格上、報酬の安さや積み上げてきたプライドを捨てて依頼主の喜びを第一優先とすることに馴染めない人は離れていきました。それでもしつかりとした運営が評価され、通常2、3年かかる国の補助金が初年度から認可されたことが誇り」と話します。



# 生涯現役！ 黄金の匠たち

地域が抱えるさまざまな悩みを、これまで培ってきた知識と経験、技術を発揮し解決しています。それは、仕事としてだけではなく、確かな生きがいとなっていました。



納めたときが一番  
お客さんが喜ぶんだよね

昔ながらの和室を備えた一戸建て住宅がまだまだ多い涌谷町。障子やふすまの表具貼り換えも、シルバー人材センターの仕事の一つになっています。

「昔は自分の家のものは、自分でやっていただけで、高齢化が進んで依頼が増えてきています。年末年始やお盆の前に依頼が集中して、法事や初盆だからと急な依頼もときには。それでも完成品を納めたときに、きれいになったね、ありがとうって言葉をかけられるのが一番だね」。

そう話す川崎健造さん（八雲区・70歳）さんから自然に笑みがこぼれます。障子とふすまの表具に対応できるのは3人。平成18年のシルバー人材センター設立当初から登録し、川崎さんは職業訓練校で、川口晴雄さん（7区・82歳）と山口良夫さん（上郡1区・83歳）は職人だった先輩からの手ほど



80代とは思わせない気持ちいいテンポで進む作業。70歳から始めてキャリア13年

きで技術を身につけました。さまざまなキャリアの人が集まるのが、シルバーならではの楽しみの一つとも話します。

「川口さんと山口さんは、80代。そろそろ引退を考える年齢だけれど、後継ぎがなかなか入ってこない。ここで技術を伝えながら引き継いでいきたい」。



白アリで傷んだ集会所の柱を1日で再生。階段や床、トイレなど、普通の大工が困るようなことを、部材費は実費で、大工としてできる範囲で請け負う。お客さんに言われる前に、提案し行動する。

**かゆいところに手が届くシルバーをモットーに**  
 元々依頼されていなかった急な階段を見つけ、何気なく声をかけたところ「直りますか？」と聞かれました。さらに、築40年で他の大工がやりたがらない、見てみぬふりをしてきたトイレも「直さなくていいの？」と聞くと、それも言いかねていたようでした。  
 依頼主の要望を聞き、するしないは別として、「このようにしては」と提案しています。



細浦悦男さん (上町区) 72 歳



涌谷町シルバー人材センターでは、春に涌谷町役場の庭木の剪定をボランティアで実施しながら、技術向上の講習会を実施。また、春の観光シーズン前には麓岳山、秋には城山公園などを清掃してきました。

**楽しんでいるのがなんだかんだ一番良い**  
 退職後、植木屋や土木の仕事をしていたところ、シルバーが設立されるということで誘われ、会員登録しました。同じ時期に登録したメンバーと、植木の剪定を専門にしています。  
 シルバーで働くことで、呆ける暇がない。これでいいというのではなく、いつまでも勉強になっています。シルバーのそこが良いところです。  
 働いた後の晩酌が楽しみであり、元気の秘訣。



吉目木明さん (2の1区) 78 歳



「前のドライバー時代は孤独だったけれど、今は仲間と一緒に楽しく働いている」「シルバーで働いて稼いだお金で自分にご褒美を与えられる」「何年も続けられたのはチームワークを楽しむ働き方をしているから」。  
 設立当初から会員に70歳・80歳となっても、夏の暑い日に笑顔を見せられるのは、シルバー人材センターでの活動が、生きがいとなっている証。  
 作業の報酬を受け取る以上に、新たな人のつながりや依頼主からの「ありがとう」という感謝の言葉が、生きがいの源泉になっています。



及川善一さん (4区)

何も言わなくて良い  
チームワークが良い

シルバー人材センターとの付き合いは、設立当時から。庭木の剪定を中心に、障子やふすま、表具の貼り換えなどをお願いしています。私の母親が介護施設に入所するようになったときには、家の片づけもお願いしたことがあります。

長年同じ会員さんに来てもらっているのですが、うちに合ったやり方を覚えてもらっています。熟練の人がいて、その人を中心にうまく良いチームワークで仕事をしてもらっています。その働きぶりに満足しています。



黄金の匠の働きっぷりに

# 私たち、助かっています！

地域が抱えるさまざまな悩みを、これまで培ってきた知識と経験、技術を発揮し解決しています。仕事としてだけではなく、積極的な生きがいとなっている証です。



佐藤園芸  
佐藤光一さん (11区)

人手がほしいときに  
確実に助けてくれる存在

夏場の一番の忙しい時期に人手を確実に確保できるということ、10年くらい前からお願いするようになってきました。

ここ5、6年は同じ人に来てもらっているのですが、「お願いします」の一言で済むので、非常に助かっています。

収穫も、調整作業もパートさんと同じような質で作業してもらっているのが、満足度100です。

シルバー人材センターは、車軸。会員さんと私たちをつなぐ役割を担ってくれており、3者が互いに支え合える機会を作ってくれています。

## 大丈夫なのは、本人だけ 抜き打ちで安全パトロール

積み上げてきたシルバー人材センターの信頼と実績を損ねないように、重大な事故の発生をパトロールで未然に防ぎます。



パトロールの結果を報告書として記録

7月から10月にかけて理事と安全推進委員が、年間5回抜き打ちで、パトロールします。

万が一、会員が重大な怪我をした場合、依頼主に迷惑をかけるだけではなく、業務請負仲介役として、事故が起きた業務と同様の業務を受けないようにせざるを得なくなりますが、業務の受注が減ることにつながります。

お互いを守るため、事故防止は徹底します。



作業の装備や危険な行為をしていないかチェック

# 元気なシニアが次の世代へ

シルバー人材センターの設立以来13年が経過し、シニア世代の生きがいくりの場としてその役割を確立してきたシルバー人材センター。今後のあるべき姿とは。

**平** 成18年4月の開設以来、定年退職後のシニアにとつては生きがいくり、地域住民にとつては暮らしを助けてくれる存在として、地域社会に貢献する公益性のある団体であり続けてきました。

開設当初は、民業を圧迫しないように請負業務を開拓することが課題となっていました。現在では、高齢化の進展や若くても自ら対応できないという世帯が増えていることから、草取り・草刈り・庭木の剪定やお盆お彼岸のお墓清掃などの依頼が増えています。さらに、農作業の依頼も増えており、涌谷町の産業の担い手としても無くてはならない存在となってきました。今年のような猛暑の中、依頼主の期待に応えようと働く姿には最敬礼するほかありません。

一方で、社会全体で再雇用・再就職が浸透していることもあり、さらには土地柄として請負業務の7割が屋外作業のため、

会員数は横ばいで推移しています。会員の平均年齢も72歳と高齢化が進んでいます。会員確保と若返りを喫緊の課題として会員の皆さんにも勧誘活動に協力してもらっています。

そのため、高齢化社会の隙間産業を開発することも、公益的な団体の役割として検討しています。

例えば、買い物に行けない、ごみ出しができないという高齢者世帯の家事代行など、軽作業を希望する人の受け皿として請負業務に成り得ます。

**今** 活躍している人の中から入会した人や80歳を超えてもがんばっている人が何人もいます。

「もう私は歳だから」と考えていても、シルバー人材センターを通して同年代の人と新たに知り合い、共に働いて汗を流し、依頼主からの感謝を分かち合うことで人生の終盤



公益社団法人涌谷町シルバー人材センター  
理事長 藤村千代志さん

がさらに豊かなものになります。

会員が主体となって企画する親睦会も会員同士の融和につながっています。

シルバー人材センターは、シニアの生きがいくりや産業・暮らしの支え手など、さまざまな面でなくてはならない財産となっています。元気なシニアとともにがんばって次の世代にしっかりと引き継いでいきたいと思えます。

ある依頼主は、「若い人には負けたくないという姿勢で、かつての農業経験を生かしながら即戦力として活躍してもらっています」とその働きぶりをたたえます。

また、ある会員は、「生涯現役。家に居てテレビやこたつの運転手をしていても仕方ない。働いている方が張り合いがあります」と日々の充実ぶりを語ります。

経験や知識、技術を生かして、依頼主に喜んでもらいつつ地域社会を支えるという生きがいをシルバー人材センターでは作れます。それは、新たな誇りとなり得るものではないでしょうか。

定年退職しゆつくり余生を過ごす生きがいもありますが、いぶし銀の自分自身を、シルバー人材センターでもう一度金色に輝かせて、誇りある生きがいくりをしてみませんか。

# それでも アツかった わくやの 夏まつり

令和となって初めての夏。  
お馴染みの伊達かっぱの里まつりと  
有志によって初めてのお盆まつりが開催されました。  
さらに、各行政区ごとにも、夏まつりが催されました。  
いつもと少し違った夏でしたが、  
それでもやっぱり涌谷町の夏は、アツかった。



①



②



③



④

## 伊達かっぱの里まつり

「涌谷町の夏はかっぱから始まる」と言われています。  
疫病や水難を逃れるため初物のきゅうりを神社に備え始めたことから始まった夏まつり。恒例のきゅうりの早食いをはじめ、町内の各団体によるステージや飲食・縁日ブースが設けられ、夏の到来を告げました。

①まつり会場に舞った豊作祈願 ②必死にきゅうりにかぶりつく ③涌高美術部が子どもたちにフェイスペインティング ④迫力の音色の涌谷太鼓 ⑤総合型地域スポーツクラブで習ったダンスを大人っぽく披露 ⑥夕暮れに幻想的に響くオカリナ ⑦いくつになっても美しくダンシング



⑤



⑥



⑦





## お盆まつり

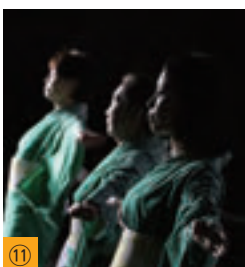
わくや夏まつりの中止が決まったことを受けて有志が集まり「涌谷睦」を結成し「お盆まつり」を計画。8月14日(水)に涌谷町役場駐車場で「お盆まつり」を開催されました。2千人が来場し昔ながらの涌谷町の夏まつりを楽しみました。

⑧

⑨



⑩



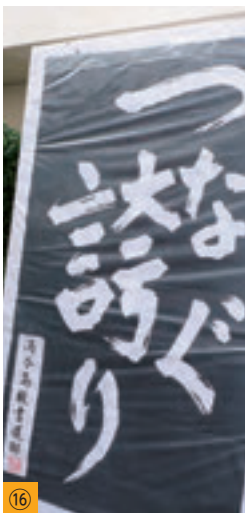
⑪



⑫



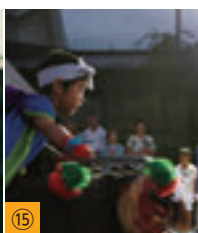
⑬



⑭



⑮



⑯

⑧オープニングアトラクションとしての流しそうめん  
⑨会場が一体となった涌谷音頭 ⑩町内のおまつりでは初披露となる涌谷空手の気合いのこもった形 ⑪優雅に舞うお茶屋節 ⑫商店街で夏まつりが開催されていた頃を思い出させる絵灯ろう ⑬夏まつりを楽しみに孫ちゃんが帰省 ⑭夏まつりならではの美味しい屋台がずらり ⑮愛らしいお稚児さんが獅子を勇ましくならず ⑯誇りとともに受け継がれる夏まつり

## 行政区のまつり

各行政区ごとに、地域の親睦を深めることを目的とした夏まつりが開催されました。9の3区では400人が来場し、かき氷や焼きそばなどの屋台をはじめ、カラオケやかき氷の早食いを楽しみました。下郡区では特設ステージで、会場を盛り上げるさまざまな演舞が披露されました。





## 涌谷ブルースターズとして快挙 王貞治旗争奪少年野球大会で準優勝

7月27日(土)28日(日)に開催された王貞治旗争奪少年野球大会(大崎タイムス社主催)に、涌谷ブルースターズが出場し準優勝しました。

今回で37回目を迎える大会で、大崎地方や登米市から14チームが出場。準決勝では1点差で激戦を制し、決勝では惜しくも敗れたものの、涌谷ブルースターズとしては初の準優勝でした。

なお、大場悠翔選手に大会優秀選手賞が贈られました。



## ペタンクで健康づくり 短台寿老人クラブAチームが優勝

7月10日(水)に涌谷スタジアムで第27回涌谷町ペタンク大会が開催され、町内の老人クラブ23チーム・69人が参加し、熱戦を繰り広げました。

短台寿老人クラブAチームが優勝し、9の3区長寿会Aチームが準優勝、小里小松会クラブBチームが第3位、9の2区高砂会Bチームが第4位となりました。

10月9日(水)に東松島市で開催される県大会には、優勝チームが辞退したことで、準優勝チームが出場します。



## 涌谷町の夏を満喫してもらいました 川崎市ふれあいサマーキャンプを受入

8月1日(木)から3日(土)の日程で、神奈川県川崎市の小学生11人が涌谷町に滞在しました。

昨年に引き続き2回目となる、川崎市が実施する「ふれあいサマーキャンプ」事業の一環で、初日は涌谷町の農家を訪問してのジャガイモやトウモロコシの収穫体験や涌谷太鼓・祭WAKUYOSA舞桜と交流。2日目には登米市長沼でカヌー体験や新鮮野菜を使ったカレーづくり、3日目は麓峯寺で座禅体験をし、涌谷町の夏を堪能していきました。



## 親子で科学に挑戦 涌谷町HAMクラブ電子工作教室

7月27日(土)に、涌谷公民館で、涌谷町HAMクラブが主催する電子工作教室が催されました。

低学年の部ではモーターを使ったバギーカーを、高学年の部でははんだごてで電子回路を組み立てるFM送信機を工作しました。

細かな部品を順番に組み上げていく作業に、子どもたちだけではなく、大人も悪戦苦闘していました。難しい工作に真剣に取り組むことで、親子の絆を深めていました。



## 働きやすい職場環境を目指して ビジネスモラル研修を開催

7月22日(月)に涌谷町役場大会議室で、涌谷町ものづくり企業連絡会が、涌谷町内のものづくり企業を対象とした経営基盤強化と人材育成を目的としたビジネスモラル研修を初めて開催しました。

町内のものづくり企業の経営者と一般社員22人が出席。ものづくり現場に求められるビジネスモラルとビジネスマナー、そして、自身の意識向上が会社のレベルアップにつながることを学ぶ機会となりました。



## 施設利用者の皆さんにも夏の楽しいひと時を 涌谷町老人保健施設で夏まつりを開催

7月27日(土)に涌谷町町民医療福祉センター研修ホールを会場に、老人保健施設恒例の夏まつりを開催しました。

老健施設スタッフが、老健施設入所者や通所リハビリ利用者、その家族と親睦を深めるとともに、季節を感じてもらおう行事としています。

職員が手作りした吹き流しのお披露目や入所者の家族による日本舞踊、各フロアの職員によるフラダンスなど、七夕気分を味わいながら楽しい時間を過ごしました。



## 城山の金さんの徒然日誌 今年は2団体が大石田町維新祭に出演

8月15日(木)に、涌谷町の友好交流の町となっておる大石田町で、維新祭という各地の郷土芸能をはじめとした団体が出演するおまつりがあるのじゃが、今年は、涌谷町から万葉さくら組と涌谷太鼓が出演した。

夕日に照らされながら優雅に舞う万葉さくら組と、前回一番盛り上げた団体として涌谷太鼓は大トリでの登場となった。

いずれも会場に集まった大勢の観客から大きな拍手と声援が沸き起こっていった。



## 子育て支援サークル・おひさまスマイル活動報告

### わくわくパラダイスを開催しました

7月30日(火)に『わくわくパラダイス』を開催しました。今回は、お菓子の空き箱を使った空気砲バズーカー作りでした。親子一緒に作ったり、一人で作る小学生もいたり、個性あふれる、いろいろな模様の空気砲バズーカーができあがりました。完成した空気砲を使った的当てゲームも大盛り上がりでした。遊んだ後はデザートタイム。夏らしいゼリー入りのキラキラフルーツポンチはあっという間に完食でした。わくわくニコニコみんなで楽しい時間を過ごすことができました。